



公田町団地

5階建て33棟、1160戸。1964年に入居開始。賃貸。



①買い物を終え、仲良く自宅に向かうお年寄り。『重い物は任せて!』。男性スタッフが配達もします

団地元気



②英語をつくる。生徒たち。手前が留学生のケイさん。奥で立っているのが学生の長島さん。『日本人と交流したい』と団地に入居したネパール人留学生のディサンさん(中央)と中国人留学生たち(左右)

「団地から店が消えて、お年寄りが買い物にも困っている」「家のなかに閉じこもる人が増え、交流がなくなりがち」。そんな悩みを抱える団地が増えています。「何とかしたい」と取り組んでいる団地があります。

君塚陽子記者



「牛乳ある?」「はいよー」。横浜市栄区の公田町(くわだんじょう)団地。毎週火曜日、団地広場にて、お弁当や総菜、豆腐にパン、野菜、米、トイレットペーパーなど日用品...。NPO「お互いさまねっと公田町団地」(会員1,535人)が開く「あおぞら(青空)市」です。「お互いさまねっと」は08年、団地自治会と地域ケアアプラザ、団地高齢者の見守りなどを目的に立ち上げました。

「市」には、毎回50人ほどが訪れます。

「団地のお店がなくなつてから買い物が大変。雨の日は特に」と84歳の女性。重い物はボランティアのスタッフが配達します。そのスタッフと並んで自宅に向かう女性(70)は「ここは坂がきついでしょ。本当に助かるよ。」

「牛乳ある?」「はいよー」。横浜市栄区の公田町(くわだんじょう)団地。毎週火曜日、団地広場にて、やかな声が飛び交います。お弁当や総菜、豆腐にパン、野菜、米、トイレットペーパーなど日用品...。NPO「お互いさまねっと公田町団地」(会員1,535人)が開く「あおぞら(青空)市」です。「お互いさまねっと」は08年、団地自治会と地域ケアアプラザ、団地高齢者の見守りなどを目的に立ち上げました。

「牛乳ある?」「はいよー!」

「お互いさま」の青空市

「市」を開くきっかけは08年夏、「お互いさまねっと」が団地で開いたタウンミーティングです。団地内の店が07年に閉店し、買い物に不安を抱える住民が多いことが明らかになりました。「まずはやってみよう」と08年にオープン。野菜や日用品は近くのJA直売所やスーパーでスタッフが調達。豆腐やパンは障害者授産施設から届きます。

お客様さんは団地の外からもやってきます。団地に住む高齢者の有志フュミさん(63)は「スーパーが撤退したために買い物用バスが巡回している地域もあります。買い物問題はどこでも深刻」と話します。

この春には店が撤退した後のお店舗を借り、常設のサロンドン(拠点)を開く予定です。ケアアプラザと協力して、高齢者の見守り活動も続けます。理事長・大野省治さんは「長く住み続けられる条件を一步一歩つくっていきたい」と話しています。

地域ケアアプラザの所長、石塚淳さん(社会福祉士)は、「青空市のように外から見える活動は参加しやすい。団地に声が響くだけでも元気をもらえる」と言う高齢者もいます」と。

(55)も「料理の知恵を教わ

ったり、自分も樂しめる」と心待ちにしています。以前

はバスでお年寄りがもとも

たしているのを見るとイラ

ーしました。「ここを手

伝うようになつてから氣持

ちが優しくなりました。い

ずれ自分も年をひる『お互

いさま』と思つよいになつ

た」と笑います。

高島平団地

地。建設は1971年。2丁目団地は

・カフェ・クリーン

